

平成27年度 後期学校評価アンケート結果について

福木中学校評価委員会

今年度の後期学校評価アンケートは、生徒、教員、保護者の意識について前期のアンケートとの比較を行った。以下に示すのは、「学力の向上」の領域、「豊かな人間性の育成」の領域、「まちぐるみによる教育」の領域、それぞれの領域における考察および今後の取り組みである。

1. 学力の向上について

<考察>

- 授業のめあての提示や生徒指導の三機能を活用した授業改善など一昨年度から継続して行ってきた取組が浸透し、授業スタイルの確立がなされてきている。(生徒項目①平均3.43②平均3.49) 生徒たちの意欲にこたえるため、視覚支援や小グループの活動を取り入れるなど授業展開の工夫を行う教員側の意識も高まっている。(教員項目③2.88→3.28)
- 昨年度から取り組んでいる授業開始時の瞑目、あいさつが学校全体に浸透してきていることがうかがえる。(生徒項目④三学年平均3.67→3.75) これは前年度からの取組を継続して全体での取組にしてきた結果であると考えられる。また今年度から新たに取り組んでいる着ベル(授業準備をして着席した状態で授業開始のチャイムを迎えること)についても生徒会の取組としてキャンペーンを行うなどする中で多くのクラスで定着してきている。
- 家庭学習の定着を目指して今年度は自主学習ノートの確実な提出と内容の充実を目標に掲げた。様々な取り組みを行う中で生徒の意識は高い数値を示していた。しかし、どの学年においても前期に比べ数値が下がっているという結果がでていた。(生徒項目⑤1年3.59→3.40 2年3.04→2.68 3年3.24→3.13) 自主学習の取り組みが日常化する中で「やらなくてもいいや」という投げやりな気持ちを持つ生徒が出始めていることが原因であると考えられる。

<取組>

- 瞑目、三秒礼、着ベルなどの取り組みについては引き続きどの教科においても意識の徹底を図る。
- 各教科の宿題や自主学習について、手本となるようなノートを生徒全体に見せるなど具体的に何をすれば充実した家庭学習になるのかやり方を示すようにして、ていねいに取り組む指導を行っていく。場合によっては放課後に取り組む時間を設けるなどし

て「やる」という意識付けをしていく。

- 保護者への働きかけや教員からの粘り強い声かけ、生徒会の取組など多角的な工夫を行っていくことで自主学習ノートの提出を呼びかける。

2. 豊かな人間性の育成について

<考察>

- 教員項目⑥の数値が低くなっていたが、改善が見られた。(教員項目⑥ 2. 29→2. 88) 全学年でASSESEが実施できたこと、また、その結果を学年会などで共有し、「見守る体制」の強化につなげることができたものと思われる。
- 生徒項目⑦(自分の考えや思いを先生によく聞いてもらっている)、生徒項目⑧(先生や周りの人に認められている)についても数値の改善が見られる。(生徒項目⑦平均3. 14→3. 30)(生徒項目⑧平均2. 83→3. 01) また、教員側にも生徒理解に努める意識が高まっており(教員項目⑦生徒の状況把握に努めている、教員項目⑧教育相談や日常の会話の中で生徒が自分の良かった点について振り返る機会を設けている)(教員項目⑦3. 13→3. 47、教員項目⑧3. 18→3. 37)、学校の取り組みを生徒も実感できていることがうかがえる。

<取組>

- ASSESEなどを定期的に行い、分析を共有することで「見守る体制」を強化する。
- 引き続き、できていることについてはその瞬間にしっかりと認める・ほめることを教員が徹底して行う。

3. まちぐるみによる教育の推進について

<考察>

- 地域との交流に関する項目に関して生徒、教員ともに数値が上昇している。(生徒項目⑬平均3. 03→3. 21)(教員項目⑬2. 84→3. 20) ふれあいひろばや地域の秋祭りなどを通して地域行事へ参加しているという意識が高まったものと考えられる。
- 生徒、教員ともに項目⑫に関する肯定的評価が高い。(生徒項目⑫平均3. 41→3. 43 教員項目⑫3. 76→3. 76) 朝のあいさつ運動や下校点検におけるあいさつなど様々な場面で活動を仕組むことで自発的にあいさつをする生徒が増えてきている。しかし、2、3年生の数値は1年生に比べると少し低めである。

<取組>

- あいさつに関しては引き続き取り組みを進めていき、生徒が学校だけでなく地域や家庭においても活発なあいさつを行うことを目指していきたい。